

スクールマネジメント実践報告書

08 和田小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	共生「他者を尊重し、多様な人たちと協働しながら社会の変化を乗り越え、幸せな人生をつくる力」を身に付けた生徒
我が校の目指す子ども像	かかわりながら 自他のよさや違いを認め合う子



小中一貫教育の具体的な取組	
我が校の取組	中学校区の取組
<ul style="list-style-type: none"> 自分事として問いがもてる課題の設定 力を合わせて問題解決する活動の実施 学級活動や縦割り班活動でお互いのよさや違いを認め合い、誰とでも協働する活動の実施 体育の授業や体力作り活動においてめあてを立て、振り返る活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや地域の実態に即した小中9年間の一貫した教育課程の編成 「地域子どもを育てる会」と連携した中学校区の健康課題に基づいたリーフレットの作成、継続的な健康教育や食育の実施 教育講演会の実施
成果○と課題■	成果○と課題■
<p>○児童アンケートの結果、今年度重点的に取り組んだ「友だちの言葉を生かして、自分の考えを言葉で伝える」の項目において、後期の肯定的評価が1割増加した。子どもたち自身も教師も、取組の成果を実感することができた。</p> <p>■保護者アンケートや児童アンケートの結果から、メディア利用について課題が見られる。学年や個に応じた支援や指導を継続的に行う必要がある。</p>	<p>○「地域子どもを育てる会」と連携し、小・中学校間の行事交流（あいさつ運動）、求める児童・生徒像の共通理解、学習の重点の共有等を実施した。</p> <p>■校長、養護教諭、事務職員の小中連携については充実しているが、教頭および、学習指導、生徒指導、体力向上等に関わる教員間の連携は、さらなる強化が求められる。</p>

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
地域の自然や「人、もの、こと」と進んでかかわることで、自他のよさや和田地区のよさ、課題を認識し、将来への夢を抱いて自分を成長させようとする児童の育成を目指す。そのために、各教科、生活科や総合的な学習の時間と連携し、児童の主体的な学びを引き出せるよう、年間を見通した活動を仕組む。また、縦割り班活動や学級活動で児童のかかわり合いを重視し、主体的で深い学びを生み出す活動を仕組む。	生活科	<ul style="list-style-type: none"> 生き物や人とふれあう・季節を楽しむ 地域の方から教わりながらの野菜栽培
	総合	<ul style="list-style-type: none"> 地域探検や自然体験活動 川にすむ生き物調べ・生息環境調べ
	総合	<ul style="list-style-type: none"> 稲作体験活動や食を考える活動 地域の方等から学ぶキャリア教育
学校運営協議会の評価 生活科・総合学習を中心に、体験活動を重視したカリキュラムとなっている。畑の先生、田んぼの先生、川の先生等、地域の人材を積極的に活用している。縦割り班活動では、学年を越えた関わりの良さが感じられる。全校児童が関われる適切な規模である。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった	
	○	当てはまる
		どちらかという当てはまる
		どちらかという当てはまらない
		当てはまらない

スクールのマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	3	保護者	3	住 民	3	その他	1	合計	10人
学校運営協議会の回数 ※()は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回 ()	2学期	2回 ()	3学期	1回 ()	合計4回 ()	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	回 ()	2学期	回 ()	3学期	1回 ()	合計1回 ()	

活動の内容	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回：部落問題学習、人権教育の授業参観の後、本年度の組織体制決め、生活科・総合学習の年間指導計画について情報交換を行った。 ・第2回：授業や引渡し訓練の参観、前期学校評価の結果について意見交換を行った。児童の学ぶ姿や不審者対応・交通安全など安全・安心な学校生活について話し合った。 ・第3回：学校給食運営協議会、いじめ見逃しゼロスクール集会と同日に開催した。地域素材や地域人材について熟議をした。 ・第4回：令和6年度学校評価や令和7年度グランドデザイン案について報告した。 	<p>○それぞれの会に合わせて、授業や行事(引き渡し訓練、六送会等の児童会行事や縦割り班活動)を参観いただく機会をもつことができた。それにより、児童の成長の具体を見て、意見をいただくことができた。また、学校評価の数値の変化と関連させて児童の姿を見ていただくこともできた。</p> <p>■学校課題の解決に向けて、学校支援ボランティアなどのマンパワーをいかに学校に取り入れることができるか。</p> <p>■地域と学校が一層連携を深めて活動することができるか。</p>

総 括
<p>年度当初は2回の予定だった会議を、2回増やして計4回開催した。グランドデザインや学校評価に基づく学校の方向性に関する議論だけでなく、授業や活動を多く参観していただくことで、児童の成長の具体や教師の支援の意義をより伝えることができた。和田小学校をよりよくしていくために、今後も熟議の機会を大切にしていきたい。また、教職員の働き方改革の視点からも、地域のマンパワーを活用できる体制づくりを進めていきたい。</p>

〈活動写真〉



○畑の先生の勧めで上越特産の野菜「えんぴつなす」を育てた。通常のなすよりも大きくておいしい野菜に、収穫の喜びがぐんと増した。(2年生)



○稲作で出たわらを使って、地域の方と協力して竹を組み、どんと焼きを行った。全校の書き初めも受け付けた。全校で季節の行事を体験した。(5年生)



○講話や仕事体験を通して、生き方や働くことへの考え方、社会に出て働くために大切なこと等を学んだ。(6年生)